

1 単元名 海からのSOS!～われは海の子、海の仲間を守ろう～

2 単元の目標

○知識及び技能

(音楽科)

- ・旋律やリズムの特徴と歌詞の意味を関連させ、ふさわしい表現を考える。
- ・歌詞に思いを馳せ、自然な発声で表現できる。

(総合的な学習の時間)

- ・現在の海が抱える環境問題や地域の川沿いの環境について理解し、日常生活の中から自分たちにできることを考え、まとめることができる。

○思考力・判断力・表現力等

(音楽科)

- ・歌詞に込められた思いやその情景を想像し、それにふさわしい表現を考えることができる。

(総合的な学習の時間)

- ・地域の川沿いでの観察、海岸でゴミ拾いをしている方の講演をもとに、自分たちが川や海の環境保全のために取るべき行動やできることを見出し、日常生活の中でできることを自分なりに考え、発信することができる。

○主体的に学習に取り組む態度

(音楽科)

- ・歌詞に込められた思いやその情景を想像し、それにふさわしい表現を考えることができる。
- ・曲にふさわしい表現を見つけ、どのような歌い方をすれば表現できるのかを考える。

(総合的な学習の時間)

- ・海や身近な川の環境を守り、未来に受け継ぐことの必要性を感じ、目的意識をもって学ぶことができる。

3 単元について

○教材観

音楽科歌唱教材『われは海の子』は、1914年（大正3年）刊行の「尋常小学唱歌」第六学年用に掲載された文部省唱歌であり、現在も歌唱共通教材として小学校音楽科第6学年の教科書に掲載されている。歌詞には海辺でたくましく成長する男の子の暮らしが描かれており、海辺の美しく雄大な風景も読み取れる。

しかし、現在の海の環境はどうだろうか。生活排水・工業排水・船やタンカーから漏れた油による海洋汚染、乱獲による海の生態系の崩壊、地球温暖化によるサンゴ礁の白化現象、海洋ゴミによる汚染等様々な課題が存在する。特に、それらの中でも海洋プラスチックごみは、プラスチックが分解されきれず直径5mm以下のマイクロプラスチックと呼ばれる物質として永久に海に漂い、海で生活する生

物の体内に蓄積され、さらにその生物を人間が食べると人間にも被害を及ぼす可能性があるとしてされている。2050年には海洋ゴミの量が魚の重量を超えるとも言われており、大変深刻な環境問題である。

では、この海の環境問題は海に隣接する国や地域・海辺に住む人々だけが関係する問題なのか。プラスチックごみは軽いため、風によって遠くまで飛ばされたり雨で川や水路に流されたりしやすいため、環境問題の原因は必ずしも海沿いで起こっているとは断定できない。河川と海は繋がっており、内陸部の川や水路、道端に捨てられたゴミも海に漂着することもあるだろう。このように、内陸部に住む児童にも海の環境に問題意識をもち、自分事化して自分たちにできることを考えられる題材である。本題材は校区内の川沿いや道沿いにゴミが落ちていないか調査する活動や、ゴミ拾いのボランティアをされている方に講演していただき、海の現状や河川と海が繋がっていることから環境問題で大きく関係していることを教えてもらうことで、問題意識を持つことができる。

○児童観

○指導観

本教材は、音楽科歌唱分野の授業において『われは海の子』を取り上げ、それと共に、総合的な学習の時間で海の環境について取り上げる。

まず、音楽科の授業において『われは海の子』を歌唱し、歌詞の意味や世界観を確認しながら『われは海の子』で登場する海はどのような海なのかを想像させ、海に関する話題を提示する。次に、総合的な学習の時間の授業において、現在の海の環境は課題があるのか、どういった課題があるのかを調べ学習する。また、海の環境問題は海の周りのみが原因ではなく、海と河川は繋がっており、遠くの川で捨てられたゴミだっけいつかは海に流れ、海の環境を汚してしまうかもしれない。このように、自然はつながっており、環境問題が起こった場所とその原因をつくっている場所は必ずしも一緒ではないということに気づかせるために、地域に流れている川の環境調査に行く。加えて、海岸でゴミ拾いのボランティアをされている方に講演していただき、海の現状を教えてもらうことで問題意識を高めてもらう。

このように、海の環境問題に対して川と海の様子からアプローチすることで多角的に考えるとともに、身近な川の環境を守ること海を守ることにつながるのだということを理解し、環境を守るために身近にできることを自分なりにそれぞれが考えられる授業にしたい。そして、海の話に親近感をもった上で『われは海の子』を歌唱し、より歌詞に自分なりの海への思いを馳せて、表情豊かに歌唱できるように繋げていきたい。

○ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…自然は循環しており、身近な川の環境を守ること海を守ることに繋がっている。
公平性…きれいで豊かな海が後世にも受け継がれ、未来の私たちや海の生物にとっても共生できる・生活できるような海であるために自分たちにできることを考える。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

クリティカルシンキング

海に隣接していない奈良県で生活するわたしたちは、海の環境問題の解決に関係ないのだろうか。

長期的思考力

持続可能な海の環境保護について考え、未来の海の生態系や私たちに豊かで美しい海を受け継ぐために自分たちにできることを考える。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

豊かで美しい海を未来に受け継ぐために、自分にできることを考える。

自然環境・生態系の保全を重視できる

海や河川の環境問題について自分事化して考え、それらの生態系の保全についても考慮することが出来る。

・達成が期待されるSDGs

11. 住み続けられるまちづくりを

14. 海の豊かさを守ろう



4 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ主体的に学習に取り組む態度
<p>(音楽科)</p> <p>① 旋律やリズムの特徴と歌詞の意味を関連させ、ふさわしい表現を考える。</p> <p>② 歌詞に思いを馳せ、自然な発声で表現できる。</p> <p>(総合的な学習の時間)</p> <p>① 現在の海が抱える環境問題や地域の川沿いの環境について理解することができる。</p> <p>② 日常生活の中から自分たちにできることを考え、まとめることができる。</p>	<p>(音楽科)</p> <p>① 歌詞に込められた思いやその情景を想像し、それにふさわしい表現を考えることができる。</p> <p>② 曲にふさわしい表現を見つけ、どのような歌い方をすれば表現できるのかを考える。</p> <p>(総合的な学習の時間)</p> <p>① 地域の川沿いでの観察、海岸でゴミ拾いをしている方の講演をもとに自分たちが海や川の環境保全のために取るべき行動やできることを見出し、日常生活の中でできることを自分なりに考え、発信することができる。</p>	<p>(音楽科)</p> <p>① 海の環境について学んだ上で、どのような海を未来に受け継ぎたいかといった願いを自分なりにもち、歌唱表現に意欲的に活かそうとしている。</p> <p>(総合的な学習の時間)</p> <p>① 海や身近な川の環境を守り、未来に受け継ぐことの必要性を感じ、目的意識をもって取り組もうとしている。</p>

5 単元の展開（全16時間）

次	主な学習活動	指導上の留意点	評価
第1次	(1時間) ・歌詞を朗読する ・歌詞の意味を確認する ・歌詞の意味を踏まえて、メロディーを付けて歌う	・海辺で育った人の生活や海辺の自然の豊かさに着目できるように、歌詞の意味を取り上げる。	・音楽イ① (思・判・表)
第2次	(2時間) ・前時の復習を行い、歌詞には海辺で育った人の海への憧れや誇り、海辺の自然の豊かさが現れていることを確認する。 ・歌詞の意味と旋律の動きを関連させ、ふさわしい歌い方を考える。 ・最近の海の様子を提示し、海の問題の課題に気づく。	・海の問題課題に気づきやすいように、海岸のごみやごみを誤飲・誤食した海の生物の写真等を用意する。また、落ちているゴミの詳細(ペットボトルに記載されている言語や賞味期限の過ぎたもの)が分かるものを提示し、ごみが世界から漂流してくることや、長い年月が経ってもなお海に残ったままになってしまうことに気づかせる。	・音楽ア① (知・技) ・音楽イ① (思・判・表) ・総合ア① (知・技)
第3次	(5時間) ・海洋プラスチック問題について調べ学習を行う ・調べた中から班で一つ問題を取り上げ、まとめて発表させる。	・班ごとに活動させ、ワークシートに調べて分かったことを発表させる。 ・発表内容に偏りが生じないように、各班から異なった海洋問題を発表できるよう役割分担をする。	・総合ア① (知・技) ・総合イ① (思・判・表)
第4次	(4時間) ・海の清掃ボランティアに参加されている方に話を聞き、海辺に環境の現状について知る。	・海辺の環境問題の深刻さに改めて実感させる。また、事前に海の清掃ボランティアに参加されている方と打ち合わせをし、川	・総合ア①② (知・技)

	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に地元の川沿いに行き、自分たちの身近な環境にもごみが落ちている現状について確認する。 	<p>の環境と海の環境との繋がりについても触れていただくようお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川沿いに落ちていたごみの行方はどうなるのかと児童に問いかけ、川の環境と海の環境との繋がりに視点を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合ウ① (主体的)
第5次	<p>(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の環境を守るために自分たちにできることは何か考える。 ・どんな海になってほしいか自分なりの願いをもつ。 ・前時で考えたことをまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かで美しい海の環境を未来にも受け継ぐことができるよう、長期的な視点から自分にできることを考えられるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合ア② (知・技) ・総合ウ① (主体的) ・総合イ① (思・判・表)
第6次	<p>(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して抱いたこれからの海への思いや願いを込めて、『われは海の子』を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律や歌詞のどの部分に自分の願いを特に込めたいかというのを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽イ② (思・判・表) ・音楽ウ① (主体的)